

## 第3学年5組 道徳科学習指導案

日時 令和8年1月15日(木) 第5校時  
在籍 男子20名 女子15名 合計35名  
場所 3年5組教室  
授業者 教諭 成井 健佑

1 主題名 規則を守ることとは 内容項目 [C(10) 遵法精神・公德心]

2 本時のねらい・教材名

主人公がとった行動と、その結果を受け、職場を去っていくまでの姿について話し合う活動を通して、法やきまりを尊重することの大切さに気づき、公德心を持ち規律ある安定した社会を築いていこうとする態度を育てる。

教材名 「二通の手紙」(出典:「新しい道徳・3」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「法やきまりを守ることの意義を理解し、それを進んで守ることで社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる」ことをねらいとしている。「法やきまり」は集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであり、個人の自由を保障するために必要なものであると考える。

中学生の時期は、人間は社会の中で生きているという自覚が深まる一方で、法やきまりを他律的に捉えたり、自分たちを拘束するものとして反発したり、果たさなければならない義務をなおざりにする傾向があるとされてます。本学級においてもその傾向がある生徒は少なからずいる現状がある。卒業まで残り少なくなったこの時期に本主題を設定することは、きまりの意義を理解するとともにそれを進んで守っていこうとする態度を養い、それが卒業後の自分たちの将来の生活を守ることにつながることを考える。

指導にあたっては、まず法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて自覚を促すことが求められる。自他の権利を大切にし、義務を果たすことで規律ある安定した社会が実現することを理解した上で、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、これからの日々の実践に結び付けられるようにしたいと考え、本主題を設定した。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

小学校高学年で「法や決まりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務をはたすこと」を学んできている。また、中学校では「選手に選ばれて」や「ゴミ箱をもっと増やして」、「いいねのために」を教材として、「きまりを守る意義」について学習してきた。また、他教科では社会科の公民分野で社会の中での「きまりの意義」について学習し、更に技術・家庭科、家庭分野において「幼児とのふれあい体験」を12月に実施し、幼児とふれあい、幼い子の考えに関心を持つことができた。こうした体験から、本時で取り扱う教材の主人公である元さんが、情に流され「決まり」を破った元さんの気持ちへの共感しやすいものと思われる。一方で、本学級の生徒は「規則やきまり」を守ることの意義について理解しているが、「軽い気持ちで」や「人の見ていないところなら構わない」とい

った安易な考えで破ってしまい、やり過ぎそうとする傾向がある。そして、その結果が重大な事態に招いてしまうこともあった。こうした生徒たちが、規則やきまりの意義について深く理解した上で、これからの社会生活の中でそれを自ら進んで守っていかうとする態度を育てたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、動物園職員の元さんが、幼い姉弟への同情心から規則を破り、それが大きな問題になってしまう。姉弟の母親から感謝の手紙をもらうものの、動物園から懲戒処分を受け、自ら職を辞する物語である。主人公の行動は心情的には理解できるものではあるが、そのために多くの人に迷惑をかける結果となった。元さんへの二通の手紙について考えることで、きまりの意義や、きまりと公私のかかわり、自他の権利と義務についての考えを深めることができる教材である。特に生徒には、個人的な感情による行動は社会の秩序を乱し、他者の権利を奪うことについて考えさせたく、本主題を設定した。

## 4、研究主題とその関わり

### ○研究主題

生き生きと輝く対話を生み出す道徳教育 ～「本質的な問い」のある授業を通して～

### ○研究主題をもとにした授業の流れ

(1) 中心発問をし、生徒が今もっている考えを引き出す

→主人公が置かれている道徳的価値に関わる場面で立ち止まり、選択に迫られる行為や心の持ち方等を推測する丸その上で、その選択をした点あるいはしようとしている理由を考えるという手順である。

#### 本時では

「母親のお礼の手紙と懲戒処分の通知の二通の手紙を何度も読んだ元さんの心の中はどんなだろう。」としている。

(2) 問いを二分し、それぞれの理由を考える

→上記で出た意見をもとに子どもの内面の根底に位置している道徳的価値観を引き出すための手段  
・本質的な問いについて交流し、吟味する

#### 本時では

懲戒処分に「処分は当然だ」「納得していない」としている

(3) 本質的な問い

→道徳的価値観を高めるために交流や吟味を行う

#### 本時では

「元さんが、会社の処分を晴れ晴れとした気持ちで受け入れたのは、なぜだろう」としている

5、学習指導過程

	学習活動	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導 入	1 ルールやきまりがあって嫌だなと思ったことは何かを聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ髪型や服装が自由ではないのか。学習に関係ないはずだ。→<u>自己都合</u></li> <li>・1日にゲームをしていい時間が決められるのはおかしい。→<u>自己都合</u></li> <li>・なぜスマホを持ってきてはいけないのか。緊急時に困るし、不便だ。→<u>他人のため</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で取り扱う道徳的価値について、問題意識を持たせるような共有や声かけを行う</li> <li>・理由を聞いて、自分がやりたいことができなくて嫌だと思ったという自己都合のためと、誰かに何かをやりたいのにできなくて嫌だと思ったことを確認する</li> </ul>
展 開	2 教材を読んで、生徒が考えたことをグループで話し合う  3 二分法を用いて資料から道徳的価値について話し合う  <b>中心発問</b> ・母親のお礼の手紙と懲戒処分のお知らせの二通の手紙を何度も読んだ元さんの心の中はどんなだろう。  4 <b>発言を大きく2つに分ける問いとその理由</b> ・処分は当然だ ・少し納得いかない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からのお礼の手紙には嬉しい気持ち</li> <li>・確かにルールは破ったから懲戒処分は理解できる</li> <li>・懲戒処分については、間違っていたことしてないのになあという悔しい気持ち</li> <li>・ルールを破ったからしょうがないという諦め</li> <li>・でも、逆に上司が私の立場なら、上司は姉弟を入れなかったのか</li> </ul> <b>【処分は当然だ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まりを破ったから</li> <li>・自分の判断で迷惑かけた</li> <li>・元さんがルール知らないわけなので処分覚悟でやったから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊や絵を用いて教材の内容を確認させる</li> </ul>

	<p>5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本質的な問い</span>について考え、話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元さんが、会社の処分を晴れ晴れとした気持ちで受け入れたのは、なぜだろう</li> </ul> <p>6 自己を見つめて振り返りを記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの自分を見つめ直して教材を通して振り返りを記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つかっただけで、やった行為は重大</li> <li>・今回は見つかったが、何かあったらごめんなさいでは済まないから</li> </ul> <p>【少し納得いかない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉弟を思いやっていたことなのに、情を入れることはダメなのか</li> <li>・そこまでしなくていいのに</li> <li>・逆に、あなたならどうしてましたか</li> <li>・あなたの情でなんとかならない</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入れる時は子供の気持ちだけを考えたが、その後のことを考えられてなかった。</li> <li>・ルールがなんのためにあるのかを心の中から理解した</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりやルールを守らなくてはいけないと思っていたし、めんどくさいとも思っていた。今回の教材を通して改めてルールが何の為にあるのかを理解し、ちょっとだからと理由があってもルールはルールなのだからよくないと思う</li> </ul>	<p>☆主人公がとった行動と、その結果を受け、職場を去っていくまでの姿について話し合う活動を通して、法やきまりを尊重することの大切さに気づき、公德心を持ち規律ある安定した社会を築いていこうとするとする意欲を高めることができたか。</p> <p>☆自身の経験を振り返り、公德心・遵法精神について考え、今後の生活に生かそうとしている</p>
終末	教師の話を書く ルールを破って失敗してしまった経験の話		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心に問いかけするような余韻をもった終末にする</li> </ul>

## 6 評価の観点

### 評価の視点

#### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公がとった行動と、その結果を受け、職場を去っていくまでの姿について話し合う活動を通して、法やきまりを尊重することの大切さに気づき、公德心を持ち規律ある安定した社会を築いていこうとするとする意欲を高めることができた

#### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自身の経験を振り返り、公德心・遵法精神について考え、今後の生活に生かそうとしている

## 7 板書計画

遵法精神・公德心 「に通の手紙」	<p>中心発問 母親のお礼の手紙と懲戒処分の通知の二通の手紙を何度も読んだ元さんの心の中はどんなだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保護者からのお礼の手紙には嬉しい気持ち</li><li>・懲戒処分については、間違ったことしてないのになあという悔しい気持ち</li><li>・ルールを破ったからしょうがないという諦めと受け入れ</li></ul>	<p>処分を受け入れる？ vs 納得いかない？</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・【処分は当然だ】</li><li>・決まりを破ったから</li><li>・自分の判断で迷惑かけた</li><li>・見つかっただけで、やった行為は重大</li></ul> <p>【少し納得いかない】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・そこまでしなくていいのに</li><li>・逆に、あなたならどうしましたか</li><li>・あなたの情でなんとかならない</li></ul>	<p>本質的な問い 元さんが、会社の処分を晴れ晴れとした気持ちで受け入れたのは、なぜだろう</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・入れる時は子供の気持ちだけを考えたが、その後のことを考えられてなかった。</li><li>・ルールがなんのためにあるのかを心の中から理解した</li></ul>
---------------------	---	---	---